

第六号



安心とつるおの「下町」三の手をめぐって

防災まちづくり瓦版

発行ノ寺言問の防災まちづくり者をわい合

昭和61年7月1日

計画をつくる
 私達住民の手でつくる
 私達住民のためにつくる
 まちの将来設計のため
 生まれ来る子供のため
 来たるべき地震に備えて
 計画をつくる
 わいわい会は、今年、
 防災まちづくり計画案を
 皆さんの知恵を集めて
 立案していきま

防災まちづくり計画、立案へ

私達わいわい会は、来年の初めまでに、この一寺言問地区の防災まちづくり計画を立案していきます。

一 寺言問地区（東向島一、三、向島五、堤通一）は、下町の風情を残すまち、歴史を感じさせるまちですが、地震や火災などの災害の危険を抱えるまちでもあります。このまちを安心とうるおいのまちにしたいというのは、私達住民の共通の願いでしょう。

計画が必ずです。私達のまちの将来像を描くこと、その将来像に向けて、何をどのようにしてゆくかという方針を示すこと、その方針を具体化するための事業（例えば、墨堤の格復活、防災三二広場の設置、防災活動道路の整備など）を提案すること、が私達が立案する計画です。

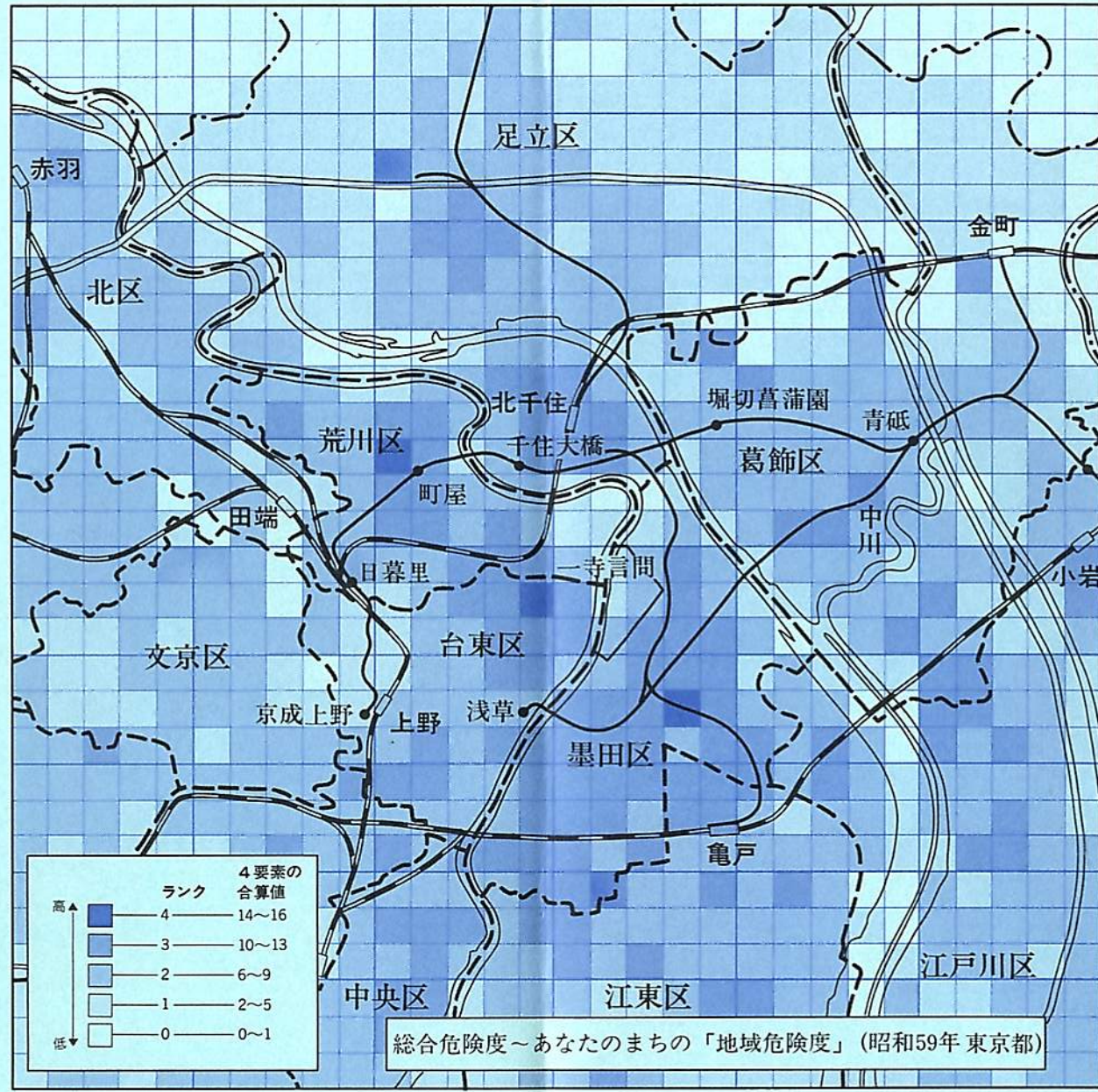
計画づくりの方法としては、まずわいわい会が皆さんの意向をくみとりながら素案をつくり、それを皆さんとよく議論しながらまとめていきたいと思っております。

私達は、この計画を単なる絵に終わらせたくはない。是非具体化したいと考えています。しかし、それは言葉で言うほど簡単ではありません。皆さんの創意と熱意を集めないと実現しないでしょう。

私達は人のつながりを大切にしながら、まちづくりをすすめていきたいと思っております。皆さんの計画づくりへの積極的な参加を期待しております。



わいわい会から、メッセージ



地震に関する地域危険度。これは関東大地震級の地震を想定し、危険度を①建物危険度②人的危険度③火災危険度④避難危険度、という四つの側面からとらえ、五段階で総合評価したもの。縦・横500mの網目（メッシュ）に区切り、単位で比較している。

一寺言問地区は、建物危険度（地震動によって建物が壊れたり傾いたりする危険性）はかなり高いが、四つの危険度を合わせた総合危険度は、周囲に比べて低くなっている。しかしこれはあくまでも比較であって、被害の規模を予測したものではない。事前の対策や住民の心構えによって被害も変わってくる。これを見て、周囲より安全だと安心せず、より安全なまちに向けて、防災対策をすすめよう。

総合危険度をみると、一寺言問地区の地震に関する危険性は低いようだが・・・

